「令和５年度　第１回いじめ対策総点検」の実施について（報告）

県立新潟中央高等学校

１　実 施 日　令和５年９月 26 日（火）

２　日　　程　午後２時 30 分～午後３時 20 分　現状の聴き取り、協議
午後３時 20 分～午後４時 30 分　グループワーク

３　訪 問 者　県教育庁生徒指導課　支援・相談班　指導主事　２人

４　参 加 者

〇現状の聴き取り及び協議
校長、副校長、教頭、いじめ対策推進教員（兼生徒指導主事）
〇グループワーク（シミュレーション）
＊上記に加えて各学年主任、ＰＴＡ役員（４人）

５　指導内容

〇現状の聴き取り、協議・・・「自校体制チェックシート」による現状の確認

・いじめ発生時の校内での情報共有では、校務支援システムを活用するなど迅速で確実な共有機会を検討すること。
・いじめ事案の対策推進教員は事案対処、研修の企画・運営等の中心的役割を担うが、記録作成などの業務について、組織的な取組の観点からも分担して行うなど工夫すること。
・「いじめ防止基本方針」について保護者へ伝える際は、警察や相談機関等との連携場面の具体的な提示があるとよい。
・校内研修においては、教職員が疑問点をオープンに質問できる雰囲気を醸成するように意識すること。
・いじめの未然防止の取組は、校内行事等で生徒主体の活動ができると更に充実する。

〇グループワーク・・・いじめ発生時のシミュレーション

・事案発生後、迅速、確実な報告を行う際は、動線をできるだけ短くするとよい。
・情報共有後、早い段階で事案対応の見通しをもつよう心がけること。
・会議や対応の記録を残すことについて役割分担を行うこと。
・生徒の発言内容や事態について全体を把握し、「違和感」を捉える感度を高く持つこと。
・保護者に対して家庭での見守りをお願いする際には具体的な方法を伝えるとよい。

６　ＰＴＡからの意見・感想

・先生方の連携したシミュレーションに感銘した。学校は子どもの安全を守っていただける場所だということを確認できた。
・シミュレーションから生徒とのやりとりの様子を見て、これまで子どものことで学校に「お願い」をすることが多々あったが、子どもを見守ってくれているのだと感じることができた。
・子どもは自分の負の部分を家庭では出さないので、ちょっとしたサインも見逃さないということが大事であると感じた。
・シミュレーションでは場面を追うごとに事態が困難な状況になった。子どもに対する接し方や見過ごしにより起こりうることへの対応について考えさせられた。